

「地図豆」の地図を広げて街歩き

## 8-1 渋谷川（隠田川）の源流をたどる （距離約 9km）

### 【街歩きの概要】

現在は、渋谷駅の南から上流は暗渠になっている渋谷川（隠田川）の、地上河川であったときの痕跡を、地図を広げて探しながら、最上流へとどこまでもたどる。



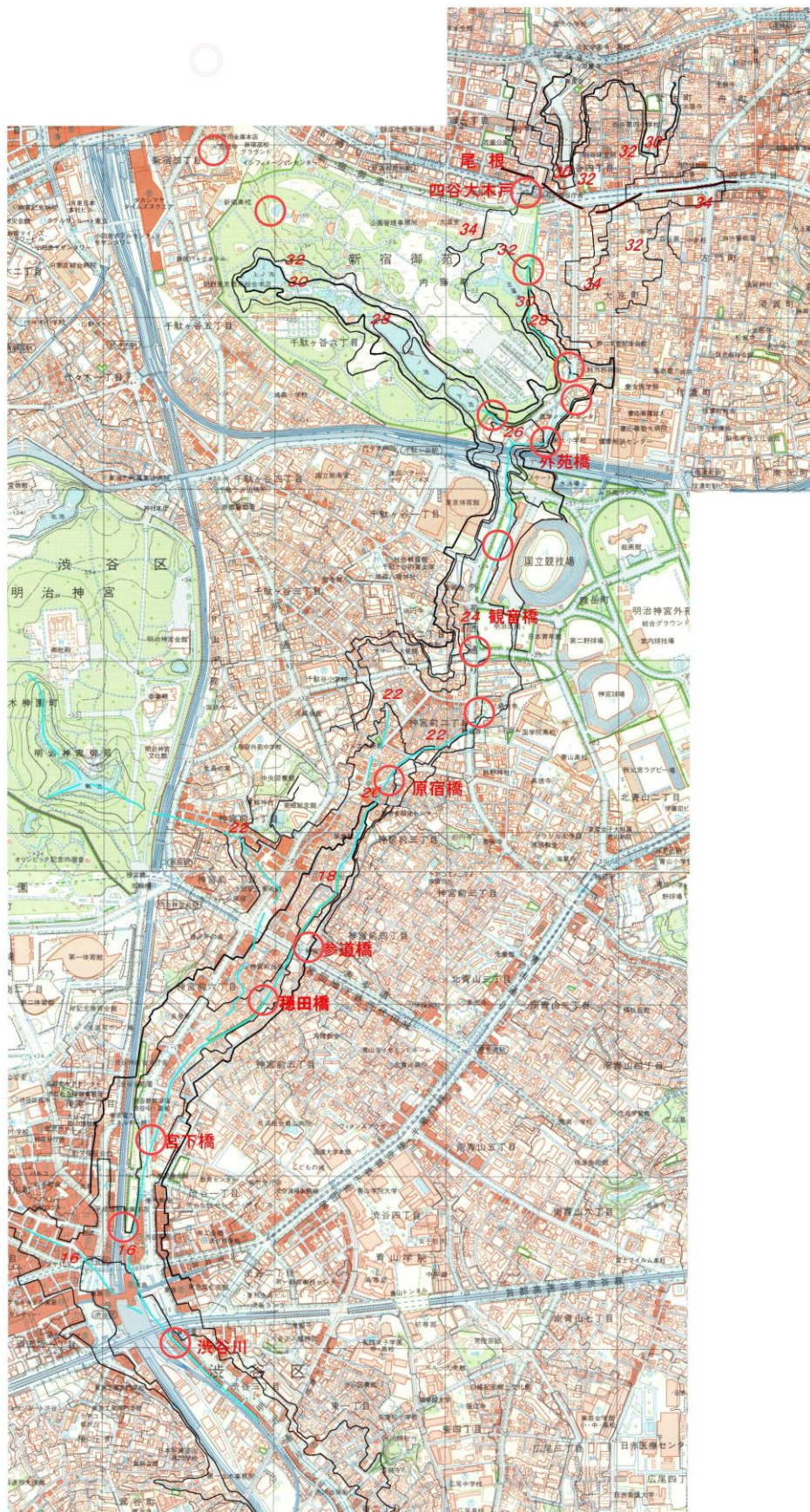
川筋が読み取れる古い空中写真（1947年 M449-116-21）と  
等高線を黒で明示した1/10,000地形図「渋谷」「新宿」

河跡たどりをするには、現在の地形図のほかに、開発が今ほど進んでいない過去の地形図、同空中写真などを用意する必要がある。そして、現地形図の等高線をたどって谷を見つけ、旧の地形図などと見比べる、あるいはお絵かきソフトなどを利用して重ね合わせると、その詳細が明らかになるだろう。現在ではデジタル標高データ（地形図）も簡単に手に入るから、これを使用してもいいが、等高線の知識を学ぶ者やアナログ人間には前者を使用するのがいいだろう。さて、下準備をしてから街歩きに出かけるのだが、そのためには、現在の地図上のこの辺りが河跡だろうという予測を立てる必要がある。そのためには地図を読む力が必要になる。

### 【道順】

00 渋谷駅→01 現在の渋谷川（のはじまり）→02 宮下公園駐輪場（渋谷川跡）→03 宮下橋柱→04（渋谷女子高前）の児童公園（渋谷川跡）→05 隠田橋跡→06 隠田橋北（渋谷川跡）→07 参道橋柱→08 原宿橋柱→09 観音「橋」から明治公園（渋谷川跡）→10 日露国境標石→11 外苑「橋」交差点・千駄ヶ谷几号水準点→12 大京小公園（外苑西通り渋谷川跡）→13 新宿御苑東（渋谷川跡と橋跡）→14 玉川上水跡・四谷大木戸跡→15 新宿御苑内源流→16 天龍寺（かつての渋谷川源流池）から新宿駅

ルートマップ





ここから先は暗渠になって北上する渋谷川（渋谷駅付近）



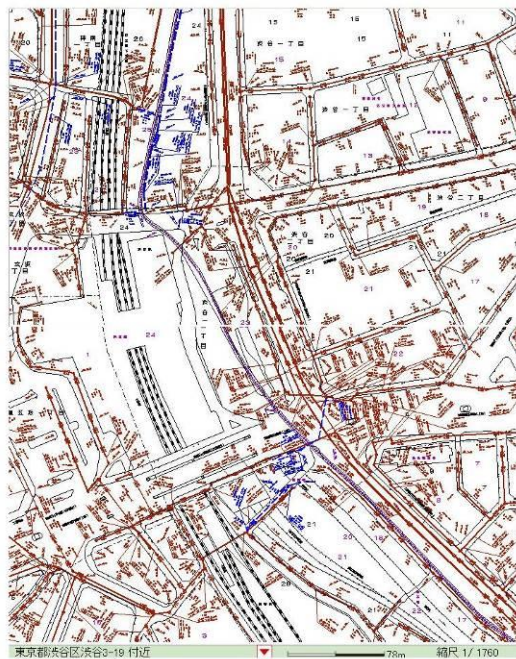
宮下公園辺りの渋谷川

### 【街歩き解説】

- ①現在の渋谷川（のはじまり）：渋谷駅南の歩道橋から見ると明らかな渋谷川、ここから上流は暗渠になり、渋谷駅ビル東の地下を横切ってから、宇田川と穏田川に分かれる。地下河川は以外に浅い場所を通過しているから、東急東横店東館には渋谷川の存在のために一部の地下フロアが存在しないことはビル案内地図を見れば明らかである。さらに、（宇田川の存在によって）地下鉄渋谷駅地下通路の分断や、西武A館とB館を結ぶ地下通路が存在していないこともこれが原因である。



暗渠があることでの通路の遮断が地下鉄半蔵門線案内図に見える  
 渋谷駅周辺の渋谷川（隠田川と宇田川）の経路を予想して青で入れたもの)



どうしても地下のことが知りたければ「下水道台帳図」を参照する  
 これによると、渋谷川の経路は予想とは異なるようだ

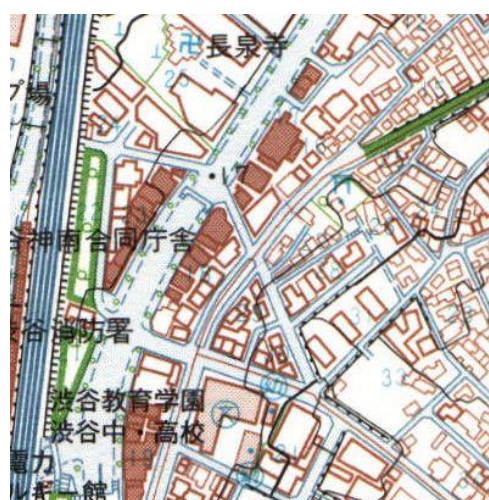
- ②宮下公園駐輪場:公園駐輪場下が隠田川河川跡だ。その後、明治通りを横切って進むようすは、歩道橋上から望むとよく分かる。



歩道橋から宮下橋、児童公園方向を望む、そして宮下橋柱

- ③宮下橋:明治通りを横切る交差点付近に宮下橋柱が残る。

- ④(渋谷女子高前)の児童公園:かつて、なかよし橋、八千代橋と続いていた。その河川跡にあたる道路中央分離帯部分が、小公園になっている。八千代橋付近には、東京府紋章付の消火用給水孔蓋が残る。この先は滑らかな曲線を描く歩行者専用道路になる。



明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川(隠田川)、  
やや下に池が見えるあたりが、なかよし橋、その北が八千代橋で、中島状になっている  
同じ地点の現在の地形図



そして、過去の地図としては、このほかに「第一軍管区地方2万分の1迅速測図原図」と呼ばれる明治期の地図も役立つ（現新宿区戸山公園附近）。

⑤隠田橋:いかにも川跡を思わせるこの通りは、キャットストリートと呼ばれている。辺りには、川べりのコンクリート被覆の先端や、住宅地から川縁へ上っていた小さな石段なども残っている。そして旧橋跡には、モダンな隠田橋柱碑が建つ。現地図の緑道の西側には一段と低くなった河道跡に沿った小道が、隠田橋跡の先東側にはかつての蛇行跡を示す小道も少しだけ残る。



明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川（隠田川）隠田橋辺り



一段高くなったところが渋谷川（隠田川）河道跡、  
その両側に被覆があって、さらに外側の低い部分が河川に沿った住宅地  
右は隠田橋柱碑

- ⑥**隠田橋北**：隠田橋跡の北には、小さな凹凸が随所にある、それは小橋の跡だと思わせる。注意しながら歩くと、道路中央の一段高くなっているほか、道端のコンクリートにも河川跡を想像させるものが見える。参道橋に近づくと、東側に小さな蛇行跡があって、ここは通りから外れる。



右が河川跡、左が河川に面した住宅地

- ⑦**参道橋**：買い物客などで賑わう参道橋交差点には、「さんだうはし」と書かれた橋柱が、なぜか5本ある。表参道を跨ぐ辺りを注意深く観察すれば、橋まわりの石積み跡も見えて、その北側では蛇行川跡がより明らかになる。





参道橋（5本ある）と、原宿橋（2本ある）の橋柱跡



参道橋跡手前に橋の石積みが残る

③原宿橋：参道橋ののちは穩原橋、原宿橋と続く。いずれも蛇行を直線化したところに水車があった。交差点の南側には、原宿橋柱が2本残る。その後の渋谷川（隠田川）は、青山キラー通りを渡り、蛇行道を進み、外苑西通りを渡って竜巖寺の崖下を北進する。

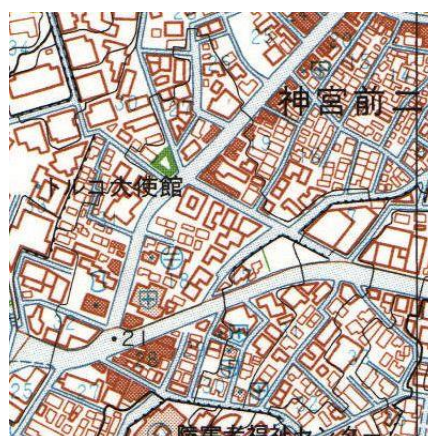


明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川（隠田川）

手前の石田橋から、水車と池の見える先にあるのが小さな穩原橋  
現在の地形図では病院の記号の北辺り



水車の地図記号



明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川（隠田川）の  
原宿橋（20.5とある辺り）、その先には巖橋  
微妙に異なるところもあるが、ほぼ河川跡と一致する道が残る

- ⑨ 観音橋から明治公園：原宿橋から先の川跡は、外苑西通りによって改変されて姿は見えない。それでも、通りの東にある龍巖寺から北の斜面は河川が浸食した崖を予想させる。仙寿院交差点からは、地名のことから河川跡を思わせる観音橋交差点をたどって明治公園へとつながる。明治公園は、川跡が意識された作りになっている。実際の流れは公園中央からやや東側にあったようだ。

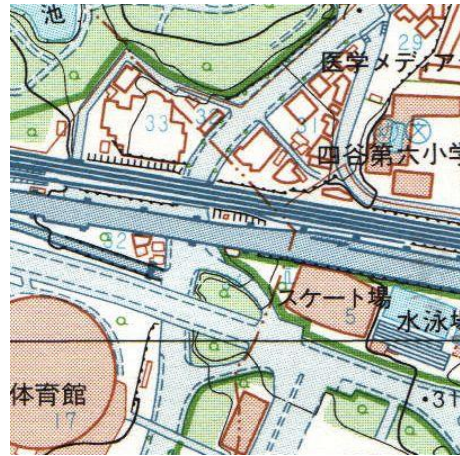


明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川（隠田川）  
 観音橋交差点のやや南には、分流地点に水車の記号が見える

⑩日露国境標石と三角点：少し東に道を進んだ絵画館前には、陸地測量部がした最初の海外測量で設置した日露国境標石のレプリカ、明治公園には二等三角点「千駄ヶ谷」がある。

⑪外苑橋：名前から河川跡であることがわかる外苑橋交差点から先の隠田川は、二つに分流する。そのことは、最初に上げた等高線を明示した地形図を参照すれば明らかである。また、旧図を見れば、線路の土手側面に沿って東へ流れる流路（解糸状の記号）が見える。さらに一つは、現創価学会敷地を横切って西方向の新宿御苑下池の流れ口へと進むものである。その流れ口は、御苑の石積みをよじ登って、柵越しに見れば明らかになる。水源は、外苑内の池を連ねた、さらに上になるから、入園後にたどることとする。

創価学会敷地北の通りに面して、凡号水準点が発見されているから探してみるといい。



明治42年1万分の1地形図でみる渋谷川（隠田川）

外苑橋線路の北側で、解糸状になった新宿御苑からの流れと玉川上水が合流している



几号水準点

⑫大京小公園（外苑西通り）：御苑内とは別にJRに沿って東にある小さな児童公園が河跡だ。公園手前のJR線の石積みや公園の突きあたりは、誰の目にも河岸や橋跡を思わせる。その後、四谷第六小学校の横を通って、この先にある（ルート大京）マンションの裏手の大京公園もまた明らかな河跡と分かる土手に囲まれている。その公園を通過して、外苑西通りを跨ぐ位置（大京交番の手前）には、しっかりとした橋の欄干が残っている。池尻橋である。池尻橋下などを覗いて確認する。また、橋の南には池尻の水車があったという（旧1万地形図にも表示がある）。

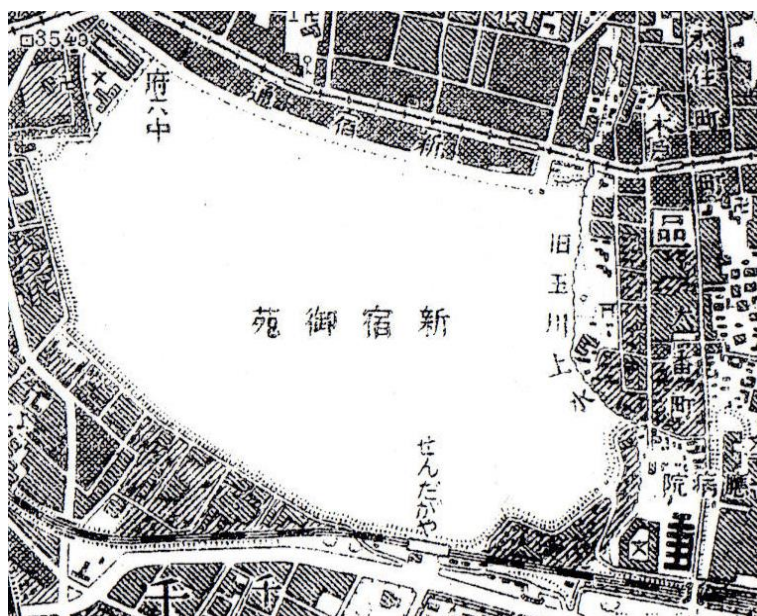


左玉藻池方向・池尻橋の欄干・右大京公園方向



池尻橋辺りに水車の記号、同橋の下には流路の跡が今も見える

- ⑬新宿御苑東：外苑西通りを跨いだ向こう側には、玉川上水余水吐きを通す半円形のトンネル跡がある。渋谷川（隠田川）のその後は、新宿御苑の塀に沿って北上する玉川用水（跡）へつながる（余水吐き）。一方は、新宿御苑内の玉藻池へと連なる。



新宿御苑の東に玉川上水が流れる（大正5測図、昭和4年修正 1/25,000 地形図）

このとき、御苑内は軍事機密として白抜きになっている



等高線から読み取れば、渋谷川（隠田川）は JR を越えてすぐに東西に分流していたことが、明らかになる。また玉川上水が尾根に位置して、そこから各所へ分水していたことも。



玉川上水跡と四谷大木戸跡碑

⑭**玉川上水跡・四谷大木戸跡**：これも、地図の等高線を色塗りしてみると明らかになるが、玉川上水は尾根に位置していて、そこから各所へ分水していた。

玉川上水は、玉川庄右衛門（?-1706）、玉川清右衛門（?-1715）兄弟から願い書が提出されて実施に移されたといわれる。承応2年4月から工事は着工され、羽村の取水口から四谷大木戸まで約43km、標高差約92mを、鍬、ツルハシ、モッコ程度の道具だけで、僅か八カ月で工事を完成させた。上水は、四谷大木戸から、さらに石樋や木樋を使って江戸城下の町々へと配流されて、市民の水需要に応えた。これが完成したのは承応3年6月であったという。

玉川兄弟の測量は、束にした線香を竹竿にくくりつけたものや提灯の明かりを利用して夜間に行ったといわれている。当然、地図も重要な働きをしたと思われるが、どのような地図が使用されたかは明らかではない。



新宿御苑下池から御苑外へと流れる（左）  
同玉藻池も同じように御苑外へと流れる（右）

- ⑮新宿御苑：新宿御苑内に入って、玉藻池の水口や下池の水口を見る。ここから池をつないでさらに上池へと進む。地形図では上池がお終いと思われるが、流れはさらに先がある。母と子の森の人工的に作られた小川だ。そこには蛇行もあって、ここが渋谷川（隠田川）最上流部となる。

新宿御苑は、元々1590年（天正18年）に江戸城に入城した徳川家康が内藤清成に授けた広大な江戸屋敷の一部であって、玉藻池付近は1772年（安永元年）に玉川上水路の余水で造った玉川園と言う庭園が元になっている。現在のような新宿御苑として完成したのは1906年（明治39年）のことである。



母と子の森から天龍寺へ（新宿御苑パンフレットと google から）

- ⑯天龍寺から新宿駅：江戸切絵図には現在の新宿御苑から、さらに先にある天龍寺の庭に泉があって、地図上ではここが最上流なのだが、現在の天龍寺境内に池はない。そのことを確認して、渋谷川（隠田川）の源流をたどる歩きを終える。天龍寺には、江戸三名鐘の一つとされる梵鐘、「時の鐘」が現存する。





江戸切絵図（天龍寺付近）と、かつて池があった天龍寺墓地

+\* \* \*+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +\* \* \*+